

使用済紙おむつの再生利用等に関するガイドライン改定に関する検討会  
第2回検討会 議事概要

日時: 令和7年12月16日(火)13時半～15時半

場所: AP新橋／オンライン(Zoom)

## 出席者

田崎智宏座長、大下和徹委員、坂川勉委員、花木秀明委員、松本亨委員、見山謙一郎委員、  
西尾清仁委員(静岡県)、高橋秀文委員(富良野市)

## 議事

1. 改定ガイドライン素案について
2. その他

## 議事概要

### 1. 改定ガイドライン素案について

環境省・事務局より資料2、3、4を説明。

#### (1) 資料2を踏まえた資料4への主な意見は以下のとおり。

- ・自治体向けの使用済紙おむつ排出量を自動計算するツールについて、現状の排出量だけでなく将来の排出量も推計できる機能があるとよい。
- ・素材メーカーや製造事業者、金融機関等の自治体以外の関係者向けのメッセージも入れるべき。また、実装の観点から、金融機関による支援事例も追記すべき。
- ・再生材の受入先の情報を拡充して掲載すべき。
- ・リサイクルのメリットを数字で表せられないか検討してほしい。
- ・「感染性廃棄物の判断フロー」について、閲覧する人を想定して見せ方を工夫するべき。
- ・販売店の役割も追記すべき。
- ・再生利用等に向けたビジネスモデルを提案できるとよい。

#### (2) 資料3の論点別意見は以下のとおり。

##### 【論点1: 優先的に使用済紙おむつの再生利用等に取り組むべき自治体の類型化について】

- ・優先的に取り組むべき自治体を類型化することは、検討開始のきっかけにもなるため有効である。先行事例を深掘しながら、類型化を検討すべき。
- ・焼却施設の老朽化や埋立処分場の延命などを課題としている自治体、リサイクルに積極的な自治体で導入が進みやすいと考えられる。

##### 【論点2: 住民や排出事業者の使用済紙おむつの再生利用等の理解促進に向けたアプローチについて】

- ・日常使いできる再生材使用製品を無償提供など、認知度向上につながる機会を設けることが考えられる。
- ・具体的な資源量などリサイクルの価値を分かりやすく示し、「資源を無駄にしない」メッセージを伝えることが重要。

##### 【論点3: ガイドライン策定からの5年間の社会情勢の変化等を踏まえた対応について】

- ・脱炭素社会への転換が重要な政策課題になっていることを踏まえ、脱炭素の観点も強調すべき。GHG 排出量の削減の面での、マテリアルリサイクルの有用性を記載すべき。
- ・製造業含め取組の広がりも期待されるところ、自治体間の広域連携時の手続や流れの紹介があるとよい。
- ・DX、AIなどの技術の進展が大きい。こうした技術の活用も期待される。DXでは既に収集分野への導入事例がある。
- ・プレイヤーや協力関係の拡大など、技術の動向や関心の高まりについて記載すべき。
- ・生分解性 SAP の技術進展や再生可能資源の観点も記載すべき。

##### 【論点4: その他更新内容について】

- ・ガイドラインをより読んでもらえるように、コラムの数を適正化したり、要約版や動画化など、見せ方を工夫して周知する必要がある。